



白老町町内会連合会三役と町理事者懇談会

―町内会の現状と協働のあり方を共有―

令和7年8月29日(金)、町役場応接室にて町内会連合会三役と町長、副町長、教育長ら町理事者による懇談会が開催されました(出席12名)。



桑田会長は「会長の平均年齢は75歳を超え、担い手不足・財政難・若年層の不参加が深刻」と述べ、「行政と地域団体が協働して持続可能な仕組みを築くことが不可欠」と強調しました。

町長は「町民意識調査で『地域活動分野』が最下位であり、地域のつながりの希薄化が町民の最大の不安」と指摘し、「今回の懇談を、新しい協働を模索する出発点としたい」と述べました。さらに、令和8年度予算に向けて「担い手確保・防災体制強化・地域交流の仕組みづくりに関する具体的なプロジェクト創設を町連合から提案してほしい」と要請しました。

事務局長は町内会アンケート(回答率31.3%)の結果として、「高齢化・担い手不足」「防災」「空き家・環境問題」が上位課題であると報告。副会長からは、避難所環境の改善や若年層の地域離れなど現場課題が紹介され、「地区ごとの担当制」「行事補助の再考」「多世代交流の再生」など具体案が示されました。

理事者側からは、デジタル回覧板導入、若者参画の仕組み、中高生の地域参画教育、小規模町内会の合併支援、防災担当制の導入などが示されました。

町長は総括で「防災・担い手・若者参加は行政と町内会の両輪で進める課題」。

活動が楽しく世代を超えてつながる環境づくりを行政も支援したい」と述べました。

桑田会長は「今後も継続して意見を交わし、町の支援に期待したい」と挨拶。

事務局長が「行政と町連合が協働して持続可能な地域づくりを進めたい」と結び、会は閉会しました。

先進地視察報告

―岩内町・小樽市桂岡町内会に学ぶ―

町内会運営の活性化と行政との協働のあり方を探るため、10月3日(土)4日(日)の2日間、岩内町および小樽市桂岡町内会への視察研修を実施しました。行政職員を含めて14名参加。

【岩内町】

岩内町では町内会連合組織を設けず、行政(町民生活課)が各町内会と直接連携する体制を構築。行政が地域と密接に関わりながらも、町内会の自主性を尊重する姿勢は白老町の町内会運営に多くの示唆を与えます。

視察では、手塚副町長をはじめ町民生活課の皆様が丁寧に直接対応いただき、補助金・活動支援など多岐にわたる施策の説明を受けました。特に、運営補助やイベント助成、デジタルツールを活用した情報共有体制、地域課題に応じた個別支援など、町内会が自立運営できる具体的仕組みが紹介されました。また、沿岸地域特有の防災課題への対応として、避難訓練や防災啓発活動、原子力防災など実践例を確認しました。



【小樽市桂岡町内会】

桂岡町内会(池田光恵会長をはじめ10名出席)では、防災意識の向上と実効性ある避難行動体制の構築を重視し、地域ぐるみで防災活動を展開。「防災ウオーク」の実施、小学校との連携、防災倉庫整備、避難訓練の運営など、組織的な取り組みが特徴です。若い世代の移住者夫婦が積極的に参加する仕組みも整えられており、地域活動への継続的な参画を促す工夫が見られます。組織運営面では、兼務の活用や役員・担当者の役割分担、防災活動と地域交流の両立の工夫など、白老町の町内会運営改善に応用できる具体的事例が豊富に学べました。

今回の研修を通じ、町内会役員は視察先の具体的な手法や体制構築の学びを得るとともに、白老町の地域課題に向き合う意識を深める貴重な機会となりました。

